

はじめての古文書講座

其の二 へんたいがな 変体仮名を読んでみよう

「おさかなづくし」の絵の右上の文字に注目してください。

例えば、上の「しん板おさかなづくし」（横書きですが、右から左へと読みます）の一番右の**最初の「し」の元になった漢字は何でしょう。**この字を見て何と読むのかと聞かれると難しいかもしれませんが、「し」と発音する漢字をいくつか頭に浮かべながらこの字を見ていると、なんとなく「**志**」の文字が浮かんできませんか？ 一方、**最後の「し」の元になった漢字は何でしょう。**これは「**之**」という漢字が元になっています。現在の私たちが使っている「ひらがな」の「し」はこれになります。このように、この「しん板おさかなづくし」という、たった10文字を読むだけでも、**2.パターンの「し」と読む「かな」のかたちを知っておく必要がある**のです。

また、右から6番目の「か」の字は、一見「う」の字に見えますが、これは漢字の「可」が元になったものです。この形の「か」は問題2の「いか」の「か」や、問題4の「あかゑい」の「か」、問題7の「かに」の「か」にも使われていますね。また「な」の字は漢字の「奈」が元になったものです。これも問題3の「あいなめ」の「な」で使われています。

このように、**一つの文字が読めるようになると、似たような文字を見つけることで解読の糸口になる**ことが、よくあります。

し く づ な か さ お 板 ん し

